

広報

たかのす

平成16年

1月16日

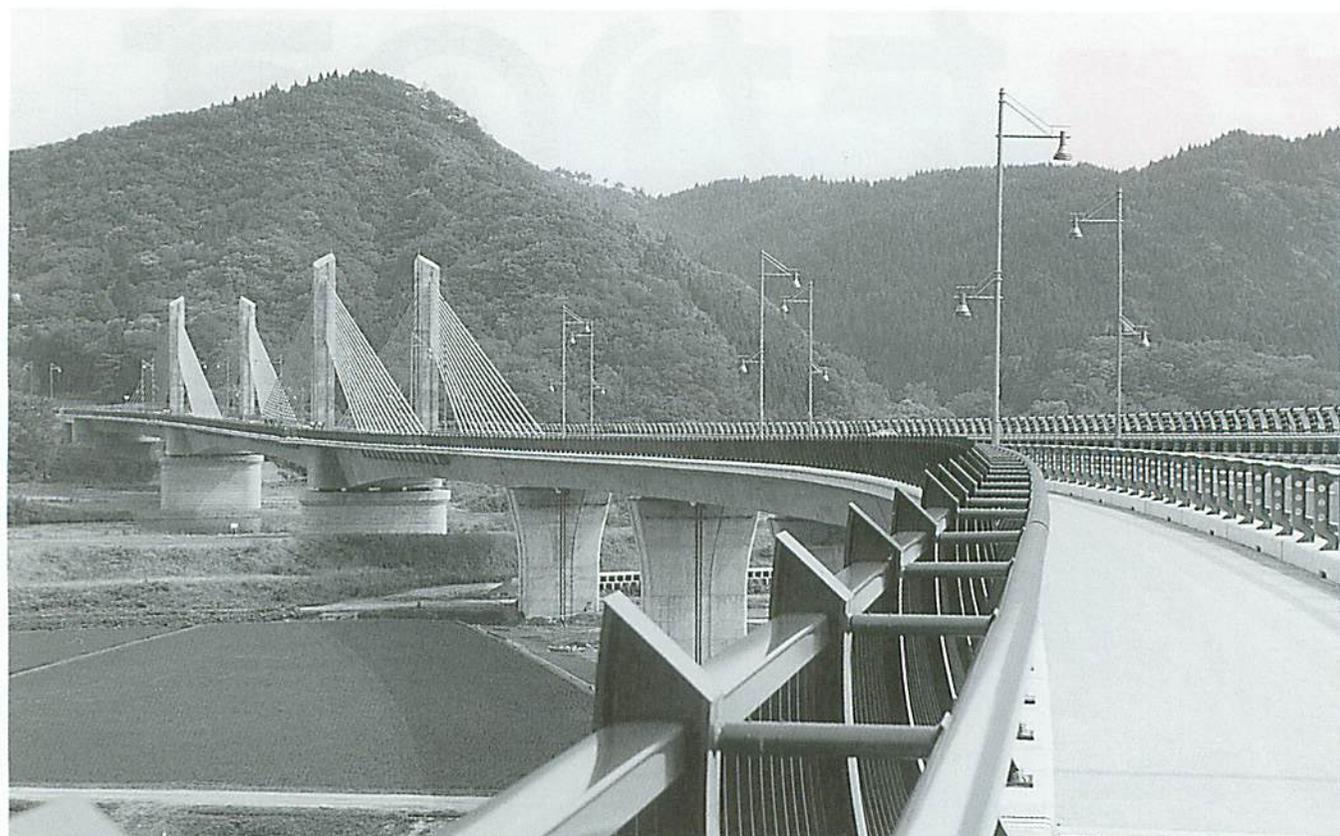


<http://www.town.takanosu.akita.jp>

TAKANOSU

1000号記念特集号





昔・今・未来をむすぶ橋 (翔鷹大橋 空港アクセス道路東西線 今泉・蟹沢間)

目次

| | |
|---|-------|
| ●701号(平成3年8月1日)から1000号(平成16年1月16日)までの歩み | 3~9 |
| ●特集 町の経緯をグラフで見る | 10~11 |
| ●町の在住者が振り返って語る | 12~15 |
| ●特集 大館能代空港 | 16~19 |
| ●鷹巣町出身者が郷土を語る | 20~23 |
| ●特集 伊勢堂岱遺跡 | 24~27 |
| ●子どもたちが夢を語る | 28~31 |



鷹巣町長 岸部 陸

1000号の発刊にあたって

町村合併による新町施行間もない昭和30年5月5日「広報たかのす」が創刊されました。以来、48年という半世紀近い間、鷹巣町の歴史とともに歩んできた同広報紙も、この度、記念すべき1000号を迎えることができました。

これも偏に、今日の鷹巣町の発展を成し遂げられた、先人諸賢のたゆまぬ努力の賜物と深く敬意を表する次第です。

創刊以来、町政全般にわたる様々な情報や皆さんのほつらつとした表情、刻々とかわりゆく町の姿をお伝えし、町と町民の架け橋として重要な役割を担って参りました。これまでの道のりを振り返るとき、その時々々の情報提供は勿論のこと、編集作業はまさに鷹巣町の歴史の編纂であったと自負すると同時に、改めてその責任の重さを実感しております。

新世紀をむかえ数年が経ちました。国内外の情勢も以前混沌としたまま、当町もまた大きな帰路をむかえつつあります。このような昨今ではありますが、広報たかのすが未来に向けて夢のある記事が一つでも多く提供できるよう切に願うとともに、今後も町の出来事をつぶさに見守りながら、皆様に愛され親しみの持てる紙面づくりを心がけて参りますので、より一層のご意見ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

701号から1000号までの歩み

平成3年

誘致企業二社決定
台風19号が鷹巣町直撃
空港建設へゴーサイン

7月8日 誘致企業二社、東北メタル(株)と(株)エス・エス・ティーステムズが決定

鷹巣町婦人消防隊設立

8月31日 全県中学女子駅伝で鷹巣中が初優勝

9月20日 台風19号が鷹巣町直撃

住家80棟全半壊、停電、断水等、被害総額は約80億円



10月20日 西小学校創立20周年記念式典

10月27日 東北中学女子駅伝大会で鷹巣中が優勝

11月15日 鷹巣地区農免農道が全線開通

17日 ふるさと鷹巣町への愛着

と思い歌い上げる「たかのす賛歌」完成発表会



29日 大館能代空港、第6次空港整備5カ年計画への組み入れが閣議決定

フライト預金が73億4100万円

大館能代空港建設へゴーサイン、鷹巣町の新しい歴史が始まる

12月8日 大館能代空港を祝う鷹巣町民のつどいが開催され、

平成4年

大区画ほ場整備事業開始
第115回種苗交換会開催
向黒沢大橋完成

1月1日 第2・4土曜日閉庁開始

元日恒例のばりじょっこ
2年連続で西軍勝ち

「商売繁盛」

県内初の一区画一砂を基本とした大区画ほ場整備事業がスタート

南中柔剣道場が完成

16日 鷹巣町青果物集荷センターが竣工

22日 西小の野呂佳子さんがアジアジュニアスキー大会

3月7日 29日 で優勝(30日)

コペンハーゲン大学・伊東敬文氏による福祉のまちづくり講演会

4月18日 朝日新聞社論説委員大熊由紀子氏による第2回福祉のまちづくり講演会

6月1日 県と町の誘致企業、東北メタル竣工式

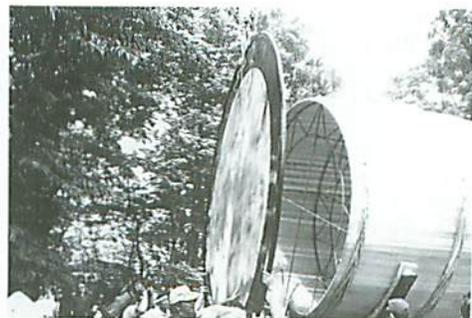
5日 昭和29、30年に建設された東小学校の一部解体工事が始まる

16日 未来たかのす計画委員会発足

28日 第58回全県少年野球北秋

ちようちん行列でパレードを行う

7月12日 田子選で南中が初優勝
新世界一大太鼓完成式



15日 村岡前運輸大臣の空港建設促進特別講演会

18日 第41回全県中学校総体陸上で鷹中男子優勝

30日 第4回ホークスサミット(北海道鷹栖町)

8月4日 第74回全国高校野球選手権大会に能代高校が出場
鷹中出身者5名

9月12日 全国高校総体フエンシング競技で合川高校の浅野輝彦君(伊勢町)が優勝

10月27日 学校週休2日制スタート

30日 105号線鷹巣バイパスが全線開通
第115回秋田県種苗交換会が開催され、鷹巣町では昭和49年以来18年ぶり4度目。61万2千人の

11月1日 参観者で賑わった
第1回若者のまちづくり
フェスティバル92



4月1日 大幅な機構改革が行われ
役場の総合案内を行う住
民サービス窓口の他、福
祉保健課、地域政策課、
空港推進課、財産管理課
が設けらる

22日 吉田昌弘氏が収入役就任
大太鼓の里が県内第1号
の「道の駅」に登録され
る

28日 慶祝森林自然公園で第1
回育樹祭開催

7月1日 役場で、一部の施設除き
土曜日閉庁が始まる

17日 全県中学総体陸上男子学
校対抗で、鷹巣中学校が
2連覇

28日 28日から29日にかけて降
り続いた局地的な大雨で、
河川9カ所、道路7カ所
農林道24カ所が崩落、被
害総額2億円

第5回ホークスサミット
(長崎県鷹島町)

8月1日 老人訪問介護ステーション
オープン

9月1日 町営放牧場内にリトルグ
リーンハウスが完成

6日 鷹巣町農協が誕生
全国自治体初の24時間
ホームヘルプサービスが

19日 始まる
みちのくフェスティバル
開催

20日 役場庁舎玄関の自動ドア
完成

23日 第4回全県中学校女子駅
伝大会で鷹巣中が3年連
続3度目の優勝



28日 大太鼓の館入館者数が20
万人達成、札幌市の女性
もろびこども園開園

10月15日 デンマーク元福祉大臣に
よるまちづくり特別講演
会・シンポジウム

11月4日 大館能代空港建設予定地
の空域で、運輸省の実践
飛行調査開始

11日 第1回鷹巣町老人福祉大
会開催

12月3日 東小学校竣工
27日 町営業師山スキー場ナイ

ター設備竣工

平成6年

1月1日 竜森コミュニティセンター
完成
空港建設の修祓式・起工式

1月1日 元旦恒例のぱりじょっこ
3年ぶりに東軍の勝ち
「家内安全」

2月20日 福祉のまちづくり特別講
演会



3月10日 竜森地区コミュニティ
センター完成

5月29日 ノルウェイ・リレハンメ
ルで開かれた第6回冬季
パラリンピックで野呂博
昭氏(前山)が回転・ス
ーパー大回転で入賞
6月26日 北欧の杜公園開園式
7月5日 ガールスカウト発足
第22回交通安全子ども自

平成5年

大太鼓の里が道の駅に認定
合併により鷹巣町農協誕生
空港建設予定地飛行調査

13日 国道7号線今泉地内に道
の駅完成

17日 向黒沢大橋が完成

12月3日 鷹巣町斎場竣工

25日 町立東保育園竣工

31日 成田多千雄収入役、藤嶋
健一教育長が退任される

1月1日 元旦恒例のぱりじょっこ
3年連続で西軍の勝ち

12日 「商売繁盛」
福祉のまちづくり講演会

2月9日 佐藤秀男氏が教育長就任

11日 福祉のまちづくり懇話会

9月3日 転車大会で竜森小学校が
念願の全県初優勝
町村合併40周年プレイベ
ント(〜4日)

22日 第5回全県中学校女子駅
伝競争大会で、鷹巣中が
大会新記録で4連覇
第6回ホークスサミット
(東京都三鷹市)

2日 南小学校創立120周年
記念式典

21日 大館能代空港建設工事の
修祓式と起工式

23日 鷹巣小学校創立120周
年記念式典

30日 綴子小学校創立120周
年記念式典

11月3日 世界の盗塁王、福本豊氏
(元阪急・野球評論家)
による野球教室・講演会

6日 京都まつりの都大路パレ
ードに綴子上町の太太鼓
が出演

平成7年
鷹巣中学校完成
町村合併40周年記念
地域福祉センター完成

1月1日 元旦恒例のばりじよっこ
西軍の勝ち「商売繁盛」

5日 綴子大畑自治会館落成式
マイツルテンナンショー

2月1日 23件目の町指定天然記
念物に決定

4日 昭和61年以来9年ぶりに
雪害対策本部を設置、降
雪量86センチとなる
鷹巣中学校落成式典



12日 大熊一夫福祉講演会

21日 JA鷹巣町の青果物振興
指導センター落成

27日 鷹巣町海外派遣研修一行
18人がデンマークとフラ
ンスへ出発(3月10日帰国)

4月23日 町長選挙で岩川徹氏が再
選

6月27日 恵比原脩助役退任

8月11日 役場庁舎玄関に大館能代
空港開港カウントダウン
の電光掲示板を設置

9月1日 鷹巣阿仁地域シルバー人
材センター事業開始式

10月8日 大阪21世紀協会主催の
「95御堂筋パレード」に
綴子上・下両町の太太鼓

15日 鷹巣町町村合併40周年記
念式典
が参加



16日 鷹巣町地域福祉センター
竣工

22日 中央小学校創立120周
年記念式典

11月2日 ホークス五市町災害相互
応援協定調印式

15日 葛黒ハイパス開通式

平成8年
水辺の楽校が開校
テクノハウス秋田鷹巣完成
伊勢堂岱遺跡保存決定

1月1日 元旦恒例のばりじよっこ
西軍の勝ち「商売繁盛」

2月10日 鷹巣町女性生活史「鷹巣
の風土に生きる」出版会

13日 川口小ヶ田地区の簡易水
道事業竣工式

3月10日 福祉のまちづくりシンポ
ジウム
4月21日 JR鷹ノ巣駅前の大太鼓
広場が完成

27日 首都圏から町政の発展の
ため未来情報委員会発足
大規模改修で新装となつ
た中央公園野球場でこけ
ら落し(鷹巣農林vs鷹巣
高校の記念試合)

28日 竜ヶ森キャンプ場休憩施
設「ドラゴンハウス」等
竣工式

7月28日 第27回全日本大学相撲鷹
巣大会開催

9月27日 東小学校のそばの河川敷
に「水辺の楽校」が開校

30日 佐藤秀男教育長退任

10月1日 岩谷利男助役就任

4日 斎藤和憲収入役就任
ウエルフェアテクノハウ
ス秋田鷹巣完成



平成9年

- 8日 松田孫明教育長就任
- 11月7日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(18日帰国)
- 18日 県が「伊勢堂岱遺跡」の保存を発表、空港アクセスルート変更
- 1月1日 元旦恒例のぱりじよっこ東軍の勝ち「家内安全」
- 4日 プロ野球オリックス・ブルーウェーブの中嶋聡選手(川口出身)、福岡ダイエーホークスに入団した村上鉄也選手(太田出身)の激励会
- 19日 縄文シンポジウム
- 2月5日 東北大学助教授外山義氏福祉のまちづくり講演会
- 4月1日 鷹巣町保健センター完成
- 2日 空港アクセス道路東西線中屋敷トンネル貫通式
- 24日 道の駅たかのすに情報システム完成
- 6月11日 アジア諸国社会福祉行政官が福祉施策研修で来鷹文化遺跡ワーキンググループ発足
- 7月16日 県教育庁文化課長の富樫泰時氏が「伊勢堂岱遺跡
- 8月29日 東洋大学教授・大友信勝氏の福祉講演会
- 15日 鷹巣町保健センター完成
- 19日 鷹巣南中学校創立50周年記念式典
- 26日 フライトチエックのため、あきた北空港の滑走路に飛行機が始めて着陸
- 11月5日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 10月8日 鷹巣高校創立30周年記念式典
- 19日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 25日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 21日 鷹巣小学校創立120周年記念式典
- 9月19日 路盤沢大橋連結式
- 21日 鷹巣小学校創立120周年記念式典
- 25日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 10月8日 鷹巣高校創立30周年記念式典
- 19日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 26日 フライトチエックのため、あきた北空港の滑走路に飛行機が始めて着陸
- 11月5日 鷹巣南中学校創立50周年記念式典
- 26日 フライトチエックのため、あきた北空港の滑走路に飛行機が始めて着陸



平成10年

- 1月1日 元旦恒例のぱりじよっこ西軍の勝ち「商売繁盛」
- 18日 元参議院議員の中山千夏氏、文化庁の岡村道雄氏の縄文シンポジウム開催
- 2月25日 デンマークのビエギット・ミケルセン氏「痴呆性老人のケア」講演
- 4月3日 鷹巣町北部学校給食センターオープン式典
- 7日 ケアタウン探検隊一般公開(〜17日)
- 1月1日 元旦恒例のぱりじよっこ西軍の勝ち「商売繁盛」
- 18日 元参議院議員の中山千夏氏、文化庁の岡村道雄氏の縄文シンポジウム開催
- 2月25日 デンマークのビエギット・ミケルセン氏「痴呆性老人のケア」講演
- 4月3日 鷹巣町北部学校給食センターオープン式典
- 7日 ケアタウン探検隊一般公開(〜17日)
- 15日 高野尻町営住宅改築ワーキンググループ発足
- 6月8日 新町民バス試乗会
- 14日 新町民バス試乗会
- 15日 高野尻町営住宅改築ワーキンググループ発足
- 19日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 22日 プンゴード孝子氏福祉講演会
- 28日 ホークスサミット10周年記念「こども交流inたかのす」(〜30日)
- 8月4日 第12回日本ジャンポリーにご臨席された皇太子殿下あきた北空港から帰京
- 24日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 26日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 7月16日 商業地開発ワーキンググループ発足
- 18日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 24日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 26日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)
- 7月16日 商業地開発ワーキンググループ発足
- 18日 鷹巣町海外研修団一行19名がデンマークとスウェーデンへ出発(10月6日帰国)



された

9月12日 鷹巣中学校創立40周年記念式典

10月9日 第5回全国在宅ケアサミット in たかのす (～10日)

17日 アグリピック'98開催

31日 参議院議員で歌手・女優の沢たまき氏文化講演会

11月19日 鷹巣町海外視察研修団一行18人がデンマークとドイツへ出発 (30日帰国)

12月27日 野呂田芳成氏の防衛庁長官就任祝賀会

平成11年

景気対策で地域振興券交付
ケアタウンたかのす開所
北空港羽田便2便化決定

1月11日 雪害警戒対策室設置

2月11日 サテライトステーション

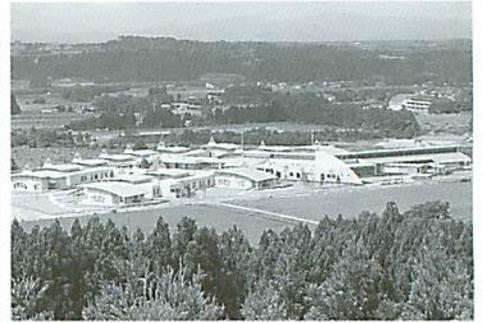
さかえ竣工式

3月10日 消費促進で地域経済の活性化を願い約6200人を対象に地域振興券を交付、総額1億2千万円

14日 新たなたかのす音頭発表会

4月1日 役場で機構改革を行い、17課を13課に統合して課長・係長を窓口配置し、住民が利用しやすい体制づくりを行った

10日 在宅複合型施設「ケアタウンたかのす」開所式



19日 公募による新鷹巣中央公民館長、寺山清利氏に辞令交付

20日 町長選挙で岩川徹氏が無投票で3選を果たす

空港ふれあい緑地オープン

米代川流域の縄文文化展と記念講演

5月20日 平成の伊能忠敬ニッポンを歩こう21世紀への100万人ウォークの一行が鷹巣町到着

6月23日 99鷹巣町交通安全総点検

7月22日 下舟木から町内へ「ふれあい通院バス」運行

8月11日 記録的な高温と無降雨の猛暑により「猛暑被害対策会議」

28日 伊勢堂岱遺跡でストーンサークル探検隊

9月14日 鷹巣町海外視察研修団一行16人がデンマークへ出

発 (26日帰国)

10月16日 タウンモビリティ導入実験

17日 東小学校創立120周年記念式典

26日 加藤登紀子コンサート

11月1日 あきた北空港羽田便が2便化

平成12年

鷹巣町女性議会開催
補助器具センター完成
北空港東京便が通年2便化

2月5日 第6回Vリーグ女子鷹巣大会

16日 鷹巣町女性議会が開催され、公募による女性議員が町政全般について一般質問する



19日 浅野史郎宮城県知事と大熊由起子氏によるプレミアムトーク

4月3日 補助器具センターたかのす完成式

デンマークオフィス市と協定書調印式

9日 大太鼓の館入館者数が50万人達成

14日 八森町の女性サテライトステーションつづれこ開所



5月13日 7人の知事が出席して白神シンポジウム

6月29日 空き店舗対策事業第1号として駅前に学習塾を開設する方に認可通知交付

7月1日 あきた北空港東京便が通年2便体制となる

28日 鷹巣町駅前商店街駐車場

8月7日 ガリニョーアルオープン農産物直売所「農家の店

3月1日 役場庁舎にエレベーターを設置

16日 リサイクルセンター完成

9月20日

「はちまき」オープン

デンマーク住宅都市大臣

ユッテ・アナセン氏が来鷹

JR鷹ノ巣駅開業100周年記念イベント

11月1日

四渡・坊山・湯ノ岱地区簡易水道通水式

30日

積水化学工業女子陸上部の小出義雄監督が鷹巣高校で講演

12月20日

町道川口藤株線開通

来生たかおコンサート

平成13年

げんきワールドオープン
森林管理署鷹巣事務所閉庁
ドリームワールドオープン

1月6日

げんきワールド開所



29日

伊勢堂岱遺跡が国指定史跡の指定を受ける

2月14日

秋田ウェルフェアテクノ

ハウス研究会主催のフォーラム

3月2日

視察団受け入れに係る福祉ウエルカム連絡会

鷹巣町福祉講演会

24日

歩行者等支援情報通信システム運用開始

4月5日

デンマーク・オーフス市のトーベン・ブランドイ・ニールセン氏ら3名による福祉政策会議

6日

スウェーデン・ストックホルム市のシーヴ・ドゥロット氏「高齢者の権利擁護を考える町民のつどい」

5月12日

IRT講習会が始まる

津谷栄光氏の県議会議長就任を祝う会

21日

高齢者人権擁護条例策定委員会設置

23日

デンマーク・オーフス市のアナ・カトリーヌ・アナセン氏、ビエギッタ・クラウセン氏らによる、痴呆性高齢者ケア講習会開催（～26日）

25日

高齢者人権擁護条例策定のための町民の会

7月23日

米代東部森林管理署鷹巣事務所閉庁式

8月1日

たかのす風土館開館10周年記念事業「布施明ドラ

9月6日

マテックコンサート

23日

海外視察研修デンマーク・オーフス市、ポランダ・オシフイエンチーム訪問

10月14日

西小学校統合30周年記念式典

20日

第13回全国高校女子駅伝県予選で鷹巣高校が優勝

30日

文化遺跡ワーキンググループ海外研修でイギリスへ出発（～30日帰国）

11月22日

（仮称）高齢者生活支援センターたかのすのモデルルーム一般公開

鷹巣町高齢者安心条例（案）をみんなで考える会

23日

遊園地ドリームワールド開園

11月22日

鷹巣町高齢者安心条例（案）をみんなで考える会

23日

遊園地ドリームワールド開園

30日

（仮称）高齢者生活支援センターたかのすのモデルルーム一般公開

15日

エグモント・ホイスコーレンの皆さんと鷹巣町民の対話集会

15日

サポートハウスたかのす開所式

25日

寺田典城秋田県知事による「市町村合併トークin鷹巣町」

4月10日

鷹巣町中心市街地交通計画調査

12日

たかのす福祉塾第一弾「高齢者福祉編」

3月13日

デンマーク・エグモント・ホイスコーレンの学生519人が来鷹（～17日）

15日

エグモント・ホイスコーレンの皆さんと鷹巣町民の対話集会

15日

サポートハウスたかのす開所式

25日

寺田典城秋田県知事による「市町村合併トークin鷹巣町」

平成14年

たかのす福祉塾開催
サポートハウスたかのす開所
市町村合併トーク開催

すを贈呈

2月3日

鷹巣町中心市街地交通計画調査

12日

たかのす福祉塾第一弾「高齢者福祉編」

3月13日

デンマーク・エグモント・ホイスコーレンの学生519人が来鷹（～17日）

15日

エグモント・ホイスコーレンの皆さんと鷹巣町民の対話集会

15日

サポートハウスたかのす開所式

25日

寺田典城秋田県知事による「市町村合併トークin鷹巣町」



5月18日

鷹巣南中の女子チームが
全県中学校春季バレーボ
ール大会で初優勝

23日

鷹巣町合併ケース検討委
員会設置

6月2日

摩当川水門竣工式

25日

特別養護老人ホーム青山
荘竣工式

たかのす福祉塾第二弾

「痴呆性高齢者編」
(〜27日)



7月24日

鷹巣町海外視察研修団一
行10名がデンマークへ出
発(8月4日帰国)

8月5日

住民基本台帳ネットワー
ク開始

たかのす福祉塾番外編

「ケアタウンたかのすと
4人の証言」

9月22日

第58回全県駅伝競走中学
校女子の部で鷹巣中学校

10月9日

が大会新記録で2連覇
たかのす福祉塾第三弾
「障害者福祉編」
(〜11日)

23日

大太鼓の館入館者が60万
人達成、名古屋市的女性
各地区で市町村合併座談
会

11月6日

14日

第2回全国障害者スポー
ツ大会よさこいピック高
知の水泳の部で堀口和美
氏(胡桃館)が金・銀メ
ダル獲得

12月21日

子育てサポートハウスオー
ブン

平成15年

町長選挙で岸部陞氏初当選
鷹巣阿仁地域任意合併協議
会設立

1月18日 市町村合併セミナー開催



2月9日

全県中学校冬季バレーボ
ール大会で鷹巣中が初優勝
市町村合併に関する町民
意識調査(〜3月10日)

3月10日

フードセンターたかのす
が完成

4月14日

廃棄物処理施設ダイオキ
シン類恒久対策工事竣工
式

5月12日

町長選挙で新人の岸部陞
氏が初当選

5月27日

岩川徹町長、岩谷利男助
役、松田孫明教育長退任

6月23日

岸部新町長が初登庁
鷹巣町、森吉町、合川町、
阿仁町の4町で第1回鷹
巣阿仁地域合併検討準備
会発足

7月31日

斎藤和憲収入役退任

8月1日

三澤仁教育長就任

8月23日

鷹巣町異常気象災害対策
本部設置

9月24日

田中康夫長野県知事が
「なぜ今・町村合併?
ズバリ私の考えはこう
だ」講演

9月25日

大館能代空港開港5周年
記念フェスタ

9月30日

恵比原脩助就任
鷹巣阿仁地域任意合併協
議会設立

10月14日

第1回新市将来構想検討
委員会

10月27日

大太鼓の里ぶっさん館創
設

11月7日

立15周年
福祉公社理事・評議員有
志の会「たかのす福祉公
社業務改善調査報告会」

12日

合併地区座談会開始
(〜21日)



19日

大館能代空港アクセス道
路南北線川口工区開通式

22日

颯爽の会「たかのす福祉
公社業務改善調査員の報
告を聞く町民の集い」

29日

佐倉アスリートクラブの
小出義雄監督、高橋尚子
選手、千葉真子選手ら9
人が来鷹

12月5日

大型商業施設設立に関す
る地権者代表者会議

未来へ つづく

つづく

町の経緯をグラフで見る

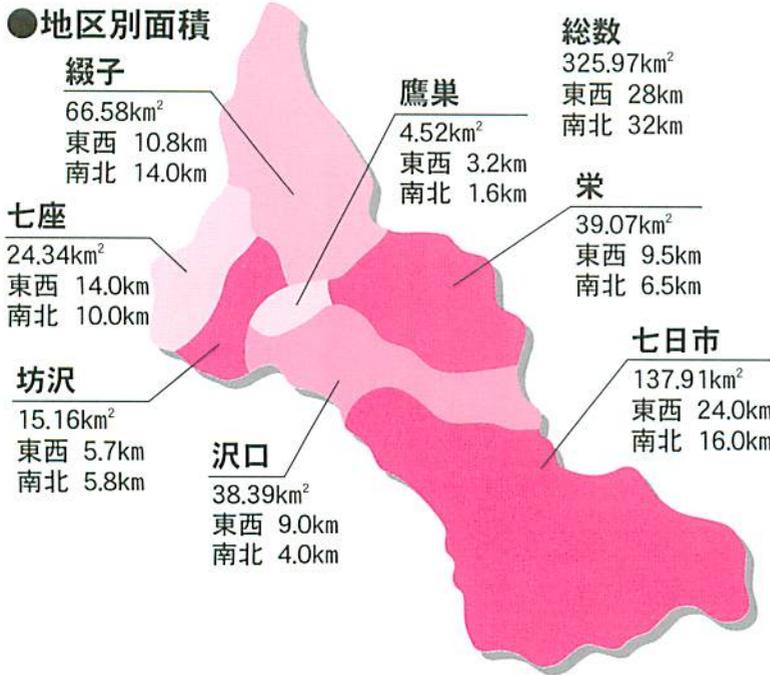
(平成12年国勢調査等から)

本町は、昭和30年に鷹巣・栄・七座・坊沢・沢口の5カ町村が合併、31年に綴子・七日市が編入合併して現在の鷹巣町となっています。

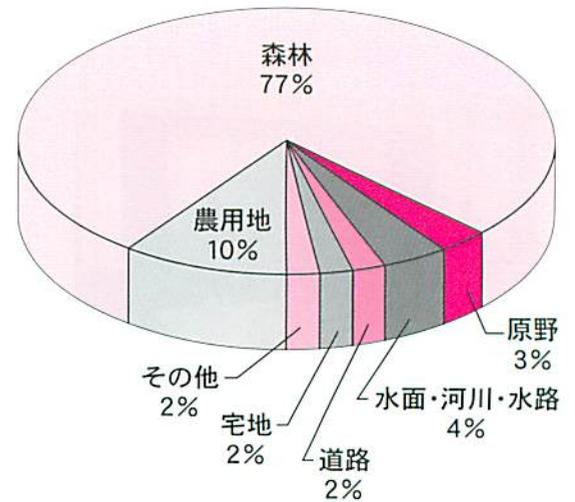
町の位置は、秋田県の北部、北秋田郡のほぼ中央で、東西28km、南北32kmで南北に長く、その面積は325.97km²で県内7番目です。

これまでの町の土地と気象・人口と世帯数・米の作付け面積と収穫量・産業(大分類)事業所数と従事者数・財政一般会計歳入・歳出決算の推移をグラフで見てみましょう。

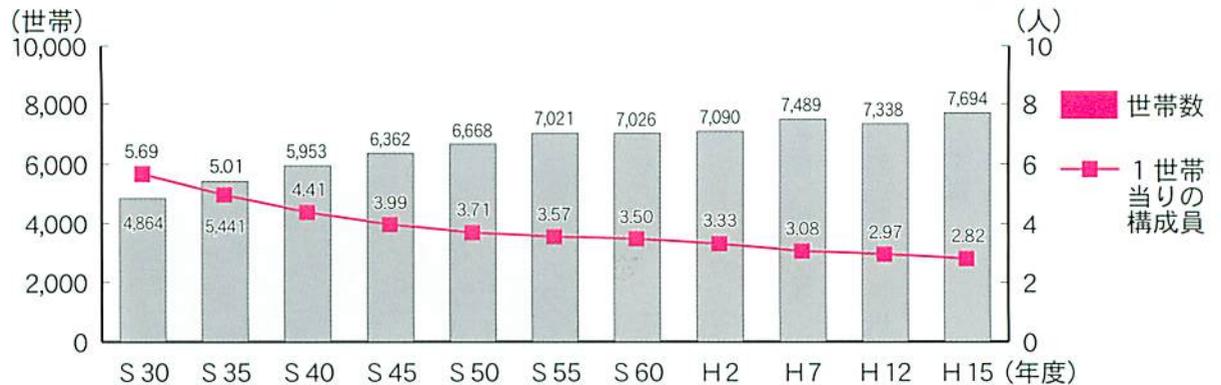
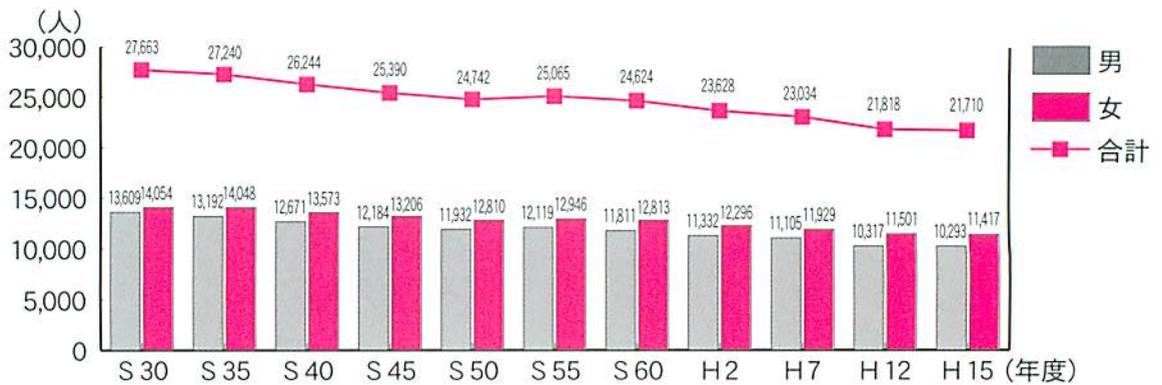
●地区別面積



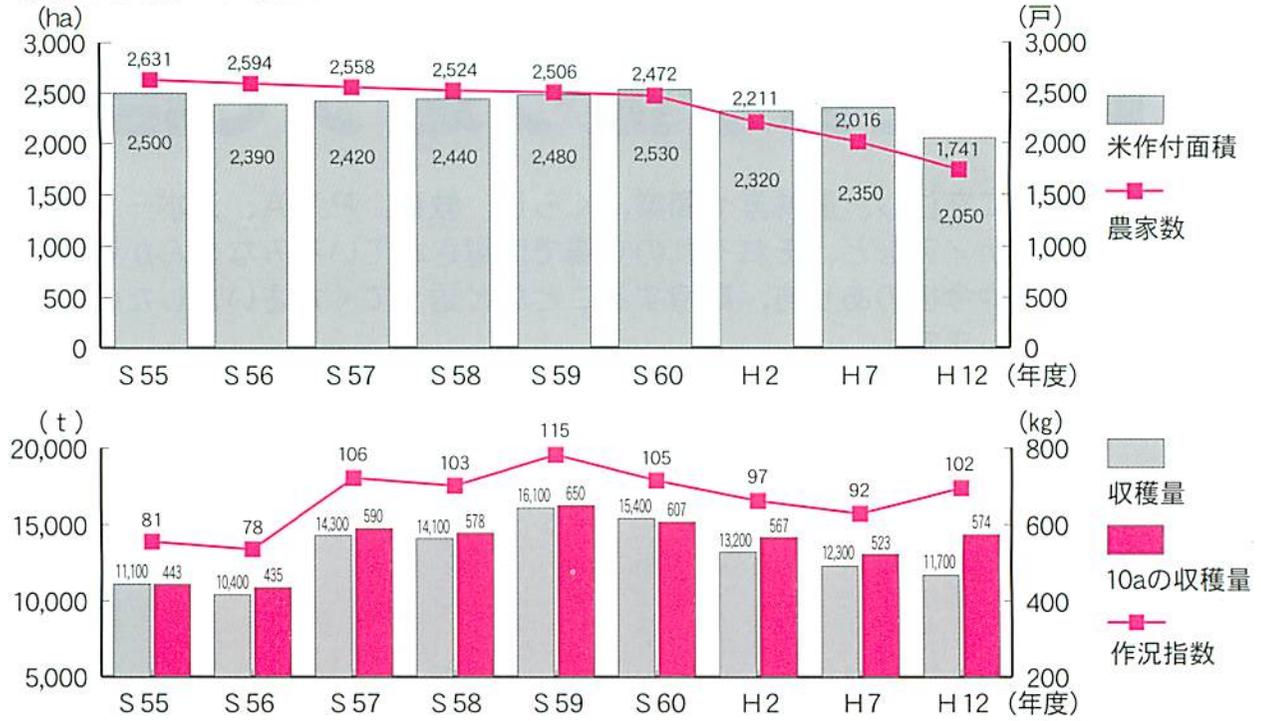
●土地の利用状況



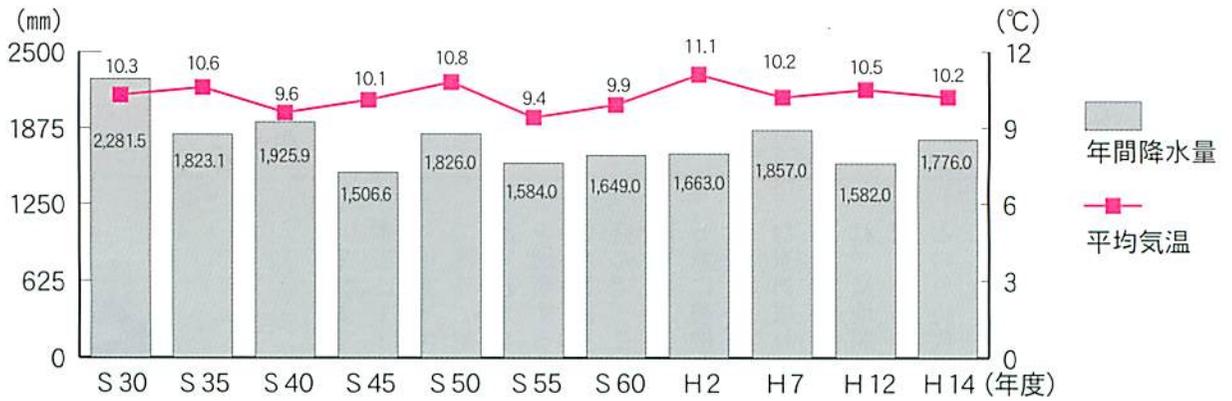
●人口



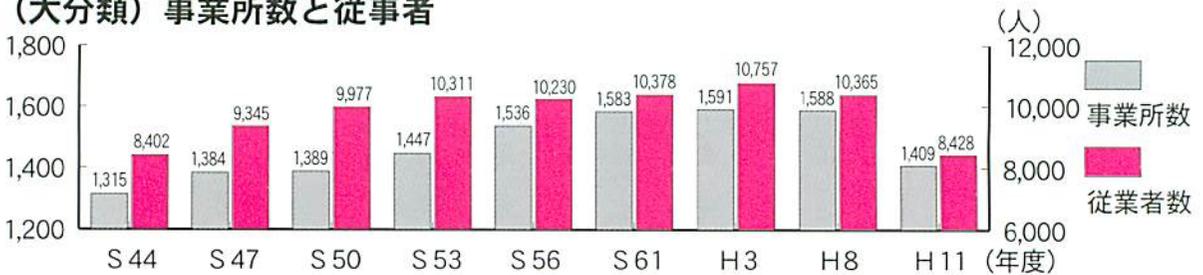
●米の作付け面積と収穫量



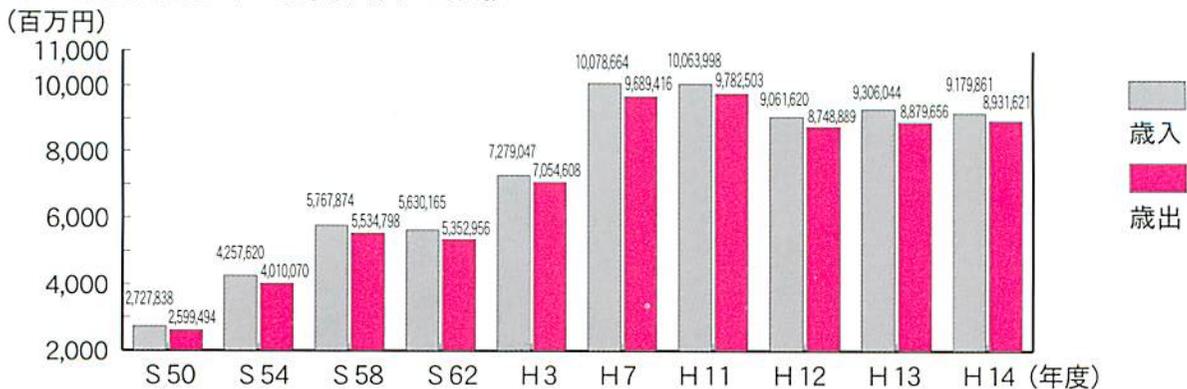
●気象



●産業（大分類）事業所数と従事者



●財政一般会計歳入・歳出決算の推移



町在住者が振り返って語る

町内に在住し、農林業や商業、くらし、教育、PTA、スポーツ、ボランティアなど、それぞれの立場で活躍されているみなさんが昔の思い出や今後のあり方、期待することなど語っていただきましたのでご紹介します。

時代の目撃者



三澤 仁
松葉町

平成3年9月26日未明、家が激しくきしむ音で目が覚めた。言いしれぬ恐怖を感じ、妻と二人で外に目をやると、向かいの家の屋根が今にもはがされようとしていた。これが今も語り継がれる台風19号の私にとつての最初の目撃現場であった。

ただ事ではないと思ひ、勤務校である森吉中学校へ駆けつけたが、途中は散々たる状況であった。学校も体育館の屋根がとばされ、床は水浸し、校舎の屋根も一部はがれ、窓ガラスも宙を舞う木っ端で割られていた。心配で登校してきた生徒と教師とで床の水を排除した。誰もが物も言わずに黙々と体を動かしていた。奉仕作業など余り好まない生徒たちではあったが、このときの愛校心ほとばしる行動力には、素直に感動した。自然の猛威には無力な私たちではあるが、それに屈しない人間の力もまた捨てたものではない。

厳しい農政の中で生きる農家



小塚 政悦郎
堂ヶ岱

これまでの長い期間に農業情勢は本当に180度転換してしまった。

旧来当町の基幹産業といえば農業であり、昭和30年の当時は戦後の混乱で日本全国どこでも食糧不足、米を増産する為に開田を盛んに行い、また技術指導者や篤農家研究などが盛んで、こぞって多収運動が繰り広げられ、苦難な農作業から開放される為に農機具が急速に普及した。その機械化が逆に災いして現在のような米あまりや減反政策が始まった。今年からは米政策大綱が見直しされ、産地間の競争が更に激化する。米さえ作っていけば所得が得られるという時代は終わった。

これからは生産者・JA・町が一体となつて産地づくりを進めなければならなく、消費者に安全・安心な国産の食糧を安定的に供給することが我々の義務であり、生き残る唯一の道であると考えさせられている。

くらしのガイドとして



山野内 キミ子
花園町

「広報たかのす」1000号発行記念おめでとうございます。私が鷹巣町に嫁いだ時より以前からの発行と聞いて驚きと同時に、今尚引き継いでこられた担当者の方々のご努力に敬意を表します。その頃の広報は白黒の印刷で写真・ページ数も少なかったように思います。それが1000号を迎えられた現在では表紙のカラフルさから始まり、町政、行事、くらしの情報と子供からお年寄りまで広範囲にわたつての内容の豊富さについて裏表紙まで目を通しては私ばかりではないと思います。私の好きなコーナーは虫歯のない子、日頃健康に心がけておられる両親と子供さんの努力の結晶にいつも感心し心からエールをおくっている1人です。これからも私達町民のきずなを更に深めるためにもホットな情報・くらしに役立つ情報を期待しています。

森林の原点



藤島 直一
綴子下町

鷹巣町の林野率は70%で、米代川流域に属し、全国でも名声の高い林業地である。

天然秋田スギを主として、数多くの製材所が存在し、町は林業と共に栄えたものである。

しかし、現状では価格の安い輸入材に押され、国産スギそのものも価格の暴落を強いられ、山林経営を維持できず、山の手入れを怠る傾向を示している。住宅建築材として必要な木材、地球温暖化防止に活躍する森林、国土保全など森林の持つ公益的機能は無くてもいいのでしょうか。水害の問題、生活水の確保、動物と人の共存など森林の大切さがお金に換算できないと強く感じます。

輸入木材が減少し、国産材の時代が到来することを信じ、地球環境のための森林でもあると町民の皆さんにも関心を持って頂きたいと節に願うものです。

内容の改革を



檜森 正
新舟見町

近年活字を読む人、読むこと好きな人、読もうとする意思を持っている人が少なくなっている。

広報は読まない人向けにでも配慮したのか、町を執行する人の考え方が広報の意義を焦点ボケにしたのか、内容にあまり読む、熟読する気にならないものが多い。

1000号を境にして新しい21世紀型、いや読まれるスタイルに紙面の内容を変えてほしい。日刊新聞との違いがあっても、多くの町民はもちろん、多くの読者からの支持をいた、だけけるような紙面への変身を期待したいものである。

期待だけでは無責任だから、改革のヒントになればと思い一例まで。広告の掲載（有料）・ページ数を減らす・1面に町民等の詩をのせる・小、中、高生らの発言、活躍などをとりあげるなど、よそとの比較ではなく、独自の創造に期待したい。

女性のパワーで健康づくりを



中嶋 静子
川口

平成10年の秋田北空港開港アクセス道路開通により環境も変わり別世界にやって来た様です。昨年は冷夏で農産物の管理や減収等で農家にとっては大変な年でした。農業一筋の道を歩んで来た一人ですが厳しい農業状況に対応するのが大変になりました。食品の偽造表示や農薬や防除剤に汚染されている輸入野菜の話を聞き安全とは何か疑問に思いました。私はそれ以来農薬を使わない様に有機栽培に心がけ野菜の種類を多くし、調理方法や加工貯蔵等に以前から興味がありましたので本を見たり仲間同士で技術交換する等して消費拡大に結びつけて食材に当て安全な食生活から家族みんなが健康であってほしいと願い老後も健康で楽しい生活ができるよう一日一日を大事にこれからの人生を歩んで行きたいと考えております。夢と希望をもって新年を迎えられた事と思います。

農は国を興す



長谷川 正
太田

国破れて山河あり 我が国は戦国時代各々その領域と利権を食うため戦いで明け暮れた歴史の中で力尽きて破れた領土に残ったものは山と河であった事から、この古語が使われていた。地球誕生以来永々と受け継がれて来た大自然の恵みの礎である我が郷土も、太平洋戦争の煽りで、国土荒廃の危機に曝された時代もあったが農は国を興す。つまり豊かで強い国を創るには、新しい産業を興す事が先決であるとの国策で先ず農村の広大な土地を改良し食料の増産自然環境を整備し、人と自然との調和を図ることに大きな役割を担って来たのが今の土地改良区制度であります。我が町の約2800haの水田で、安全で安心な作物をどう作り出していくのかを、農業と関わりを持たない人達との対話を深めながら、これからの我が町の土地改良事業を推進して参りたいと考えております。

地域スポーツを考える



笹 渕 文 也

旭 町

私達スポーツを愛する者が今後どうあれば良いか考えてみたい。現在旧町村単位では駅伝・バレーボール等楽しんでいて結構なんです。専門的な種目を高い技術レベルでやってみたい人も数多く居ると思います。

少子高齢化時代に備え鷹巣阿仁部広域圏に大きなスポーツクラブを作り、いろんな種目に優秀な指導者のもとすばらしい競技選手が育つ環境が整えられます。この場合練習場所は現在各町村にある施設を活用すれば対応できると思います。一方中高年層に関しては人数に限りもありませんので、競技種目をあまり増やさずに現在有る種目に手を加え、健康志向派も楽しめるルールを作るなど広い視野に立つてほしいと考えます。

「広報たかのす」1000号を契機として、鷹巣町を含めたこの地域が老いも若きも楽しめる社会であることを望んでやみません。

合併10年と活動のなかから



佐 藤 栄 子

綴子小田

平成6年鷹巣町の婦人部合併、8年婦人部から女性部と名称が改められ活動してから10年をむかえた。

10年間の農業情勢は、新食量法が施行、米の価格低下、輸入農産物の増大による農業所得の減少、食の安全を揺るがす事件が発生している。

近年狂牛病や食品の偽造表示、無登録農薬使用等食に対する不信任感が問われ消費者に不安を与えている。

私達女性部は「食と農」を守る運動の一環として「地産地消」運動に取りこんで来ている。今こそ、声高く「地産地消」を基本とした直売活動、これは経済面だけでなく、安心安全な食料を消費者に届ける役割もあると思っている。現在農業の担手の6割が女性である。

今後の活動は、女性の声をJA運営に反映させるために学習をつんでJA運営に参画出来るような活動に努力したいと思っている。

私と広報たかのす



亀 山 勇 夫

田 沢

表紙より見れなかつた頃もあったが今は、隅々まで目を通しています。ページ順にはこだわらず人口と世帯数・慶弔だよりのページから捲ります。これまで町としては全県一人口が多かつたこと、出生率の低いこと、地元で結ばれる若者の少ないこと等々時代の流れとは言え暗く細かい思いでいっばいです。又昭和30年町村合併と同時に発刊されて以来町の出来事、発展の姿、幅広い暮らしの情報、各分野で活躍された方々の紹介、そしてその時代時代の首長の特色ある町づくりの姿を綴り続けて来た広報たかのす第1000号を数えたこととは大変すばらしいことと思います。ただ広報で見るとかぎりでは、発展し続けている我が町であるはずですが、くぎりくぎりの町政の継続性に欠けた町になっている。勇気をもって広報の表紙に見るような町をつくってほしいものです。

希望を育む



岡 村 宣

東横町

広報700号から1000号への12年半は、私が鷹巣で働いた期間とほぼ重なる。私が子どもたちに育ててもらったこの期間「子どもが変わった」と言われてきた。その背景にアニメやゲームの影響があるのは確かだが、それらを与えているのは私たち大人であるということに自覚した方がいいだろう。

子どもは変わらない。好奇心の塊のような目と柔らかい心で生まれてくる。変わったのは社会であり人間（価値観、生活様式）なのだ。より便利に、より効率的にと。子育てはそうは行かない。じっくりと、時間と手間としっかり向き合う心のやり取りを重ねてこそ、その向こう側にとてつもない喜びが見えてくる。

いつの時代も社会の希望は子どもたち。不安な時代だからこそ、本当の希望を社会全体が見出し、育むことを求めるべきではないだろうか。

人と人の絆から始まる



佐藤 つじ子

材木町

「地域づくり・まちづくりは、広域的・広範囲に考えてこそ我が町の魅力が見える」と取り組み17年、100キロマラソン大会は平成と共に16年。全国の中でも『ボランティア精神が自然で人情豊かで、その人情がピタリする地域の自然・秋田路は、素晴らしいよ！そこでまた会おうよ、ジャヤ！』と言う言葉が、全国各地各大会で、交わされていると聞きます。1年目「よくオメがだよったな」2年目「予行練習か」3年目「リハーサル上手くいったな」と誰もが現在のような大会に成長しようとは、大会を重ねるごとに「楽しく絆が深まっていく様は、目的を同じくする町村の人の垣根を超えた運営側・参加する側『それぞれ地域住民のひとりとして、少しでも誇りの持てる町に県に大会に』自分達自らできることは自分たちで」と一体になり、やろうとしてやった結果である。

ひとづくり、まちづくり



成田 正雪

伊勢町

「広報たかのす」創刊1000日心よりお祝い申し上げます。昭和30年より48年間、鷹巣町と共に歩んでこられた事は関係各位の町に対する想いと弛まざる信念の賜物と尊敬の念を感じております。子供、高齢者のいる家庭には欠かす事のできない情報、また町の出来事等多く掲載されており老若男女問わず楽しめる紙面は、地域のひとづくりそしてまちづくりにとって欠かす事のできない情報源であります。鷹巣阿仁青年会議所も、今そして将来を見据え青少年健全育成、地域活性化等の一助となる様ひとづくり、まちづくりを実践し、また挑戦しておりますが「広報たかのす」に掲載されている情報も一つの指針として活用させて頂いております。今後より良い地域づくりのためにご活躍されることを祈念申し上げます。お祝いのごことばといたします。

最近、想うこと



高橋 勇行

糠沢

私は綴子小学校を卒業して30年、同級生は68名、私の小学1年生の次男の同級生は28名です。この間に子供たちが半分減ってしまいました。友達が次男坊に、もともととたくさんの友達ができればいいと思うのは私だけでしょうか・・・。私は現在、綴子小学校のPTAに携わり、PTAの活動をしていく中で、子供たちとふれあい、先生・保護者のみなさんといい出合いをし、他校の人たちとの交流を通じて、PTAの良さがわかったような気がします。大人は子供たちを弱い存在だと思いがちですが、意外と強かったり、たくましかったり、苦しい時は友達と助け合ったりと、親が心配するほどでもなかったりします。親は子どもに対して過干渉にならず、本当に大変な時にだけ手をさしだし、あとは、まわりで応援するサポーターでいいと感じています。

さぶる学級として



佐藤 美由起

七日市本郷

平成4年2月、さぶるの記念すべき設立総会が開かれてから、はや12年が過ぎようとしている。それは生涯学習を応援するボランティアグループが次々と誕生し、行政主導から住民主導の生涯学習へと生まれ変わる時代の先駆けであったように思う。そしてその変革期を支え、町民の理解を進めてくれたものの一つが「広報たかのす」であった。講演会などを熱心に取材し取り上げてくれた担当者たち、鷹巣町のほとんどの町民が目を通す広報、これほど強い味方はない。この行政の側面からの協力は、他市町村の市民活動グループをうらやましがせたものだ。これからも行政本位でなく、住民自治を側面から応援する暖かい広報として、末永く私たち町民の誇りであり続けることを期待する。

あきた北空港(大館能代空港)の歩み



● 全員賛成の意見を述べた公聴会



● 34万人の署名簿を運輸大臣に提示



● 住民の熱意を強くアピール総決起集会

| H 4 | | H 3 | | H 2 | | | H元 | | | S63 | S62 | S57 | | | | | | | | |
|------------------|----|------------------------|-----|----------------------|-----|------------------------|-----|----------------------------|----|-----------------------------------|-----|---|---|----|----------------------------|----------------------------|----|----------------------------|--|--|
| 8月 | 6月 | 4月 | 12月 | 11月 | 10月 | 5月 | 10月 | 5月 | 4月 | 1月 | 11月 | 10月 | 8月 | 5月 | 4月 | 7月 | 8月 | 12月 | | |
| 空港建設予定地で基本測量が始まる | | 運輸省空港整備計画検討委員会において大館設置 | | 県が「大館能代空港建設推進事務局」を設置 | | 県が鷹巣町に「大館能代空港対策事務所」を設置 | | 第6次空港整備5カ年計画の予定事業組み入れが閣議決定 | | フライト預金募集(目標20億円に対し総額73億4100万円となる) | | 大野運輸大臣、自民党航空対策特別委員会が現地視察・「総決起大会」で住民の熱意を示す | | | 村岡運輸大臣が空港建設予定地を視察・最大の協力を約束 | | | 34万人の署名簿を大野運輸大臣に提示、空港設置を要望 | | |
| | | | | | | | | | | 空港の名称を「大館能代空港」に決定 | | | 「秋田県北空港建設促進期成同盟会」が「大館能代空港建設促進期成同盟会」に改称 | | | 34万人の署名簿を大野運輸大臣に提示、空港設置を要望 | | | | |
| | | | | | | | | | | 同盟会が署名運動を開始・空港の名称を一般から募集 | | | 秋田県北空港建設促進総決起集会が鷹巣体育館で開かれ、2500人が参加、住民の熱意を強くアピール | | | 滑走路配置案を決定 | | | | |
| | | | | | | | | | | 基本計画調査開始 | | | 空港調査専門委員会設置 | | | 県が建設候補地を鷹巣町大野台中屋敷付近に決定 | | | | |
| | | | | | | | | | | 県北18市町村による「秋田県北空港建設促進期成同盟会」設立 | | | 県が空港適地調査を開始 | | | 県議会が県北地方への空港建設運動を起すよう要望 | | | | |

おもなできごと



●シンボルキャラクター「ノッキー」



●5カ年計画の組み入れが閣議決定



●空港起工祝賀会



●地権者会が県に同意書100%で提出



●空港用地単価調印式



●空港設置決定祝賀会

| H9 | | H8 | | H7 | | H6 | | H5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------------------------|------------------|-------|----------------------|----|----------------------|---------------------|---------------|--------------------|--------------------|----------------------|----------|-----------|----------------------|-----------|----------|----------------|----------------------|------------|-----------------|--------------------|---------|----------------------|---------------|----------------------|------------------|--------------------|-------------------|--------------|
| 12月 | 11月 | 10月 | 5月 | 4月 | 3月 | 10月 | 7月 | 12月 | 11月 | 8月 | 7月 | 4月 | 12月 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 発表 | 県知事より平成10年7月18日が開港予定日と | フライトチェックで検査機が初着陸 | 目前を実感 | 開港プレイベントに約1万5000人が開港 | 改称 | 「建設期成同盟会」を「利用促進協議会」に | 町が機構改革により「空港推進課」を設置 | 地権者会から県に同意書提出 | 運輸省が平成6年度政府予算に予算要求 | 運輸省が建設予定地をフライトチェック | 運輸省が空港設置に関する公聴会を開催・空 | 港設置申請を許可 | 空港用地単価調印式 | 空港建設局及び建設事務所が土木部に移管・ | 用地・補償契約開始 | 航空灯火設置許可 | 空港起工式・本体工事が始まる | 日本ジャンボリー大会開催に合わせて空港の | 早期開港を知事に要望 | シンボルキャラクター公募を開始 | ターミナルビル株式会社発起人会の開催 | 滑走路工事着工 | 空港現場見学会に約5千人の見学者が訪れる | ターミナルビル(株)を設立 | シンボルキャラクターに「ノッキー」を決定 | 管制塔の建設工事に伴う安全祈願祭 | 空港現場見学会に約7500人が訪れる | 空港の愛称を「あきた北空港」に決定 | 空港ターミナルビル起工式 |

ちょっとそこから ずっと遠くへ



●開港を喜ぶ町民祝賀会



●平成10年7月18日大館能代空港が開港しました



●ヨーロッパツアーのチャーター便が出発



●一番機の到着に大勢集まりました



●一番機到着を待つ人々

| H11 | | | | | H10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---------------------|---|--------------------|--------------------------------------|------------------|---------------|----------------------------------|----------------|----------------------|---------------------|---|----------------------|---|---------------|--|---------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|--------------|---|---------------------|---|--------------|-----------------------------|-----------|
| 10月 | 8月 | 7月 | 6月 | 4月 | 3月 | 1月 | 11月 | 10月 | 8月 | 7月 | 6月 | 5月 | 4月 | 2月 | | | | | | | | | | | |
| 「北のあきた観光と物産フェア」を開催 | 周年と東京2便化のキャンペーンイベント | 観光キャンペーン実行委員会が東京で開港1周年と東京2便化のキャンペーンイベント | 札幌便季節運休の運行申請し2便化決定 | エアートニッポンが運輸省に11月から東京2便の開港1周年記念イベント開催 | 「フライト預金II」預金募集開始 | 「観光課空港利用係」に改組 | 町の機構改革により「空港推進課」が「商工観光課空港利用係」に改組 | 整備工事が完成し一般開放開始 | 空港周辺の緩衝緑地帯公園（ふれあい緑地） | 田湖も四季鮮やかなあきた北空港」を決定 | あきた北空港」全国向けは「白神山地も十和田湖も四季鮮やかなあきた北空港」を決定 | 地元向けは「ちょっとそこからずっと遠くへ | 利用促進協議会が公募のキャッチフレーズ、大館市であきた北空港活用フォーラム開催 | の翼」を開始（現在継続中） | 鷹巣阿仁部住民対象に「たかのすあに新時代の地域活性化懇話会が冬期間搭乗率向上のため訓練を実施 | 航空機事故に備えて空港で初の消火救難総合訓練を実施 | 開港記念で大館市と比内町の2団体主催のヨーロッパツアーのチャーター便が出発 | 開港記念で大館市と比内町の2団体主催のヨーロッパツアーのチャーター便が出発 | 空港ターミナルビルが完成 | 空港敷地内に建立された「空港竣工記念碑」と「湯車集落移転碑」の除幕式が行われる | 空港記念イベントに約2万6000人参加 | 空港敷地内に建立された「空港竣工記念碑」と「湯車集落移転碑」の除幕式が行われる | 空港ターミナルビルが完成 | 空港法に基づく飛行場検査に合格・7月18日の開港が決定 | 空港本体工事が完成 |

【あきた北空港開港】（10年7月18日）

開港を記念して「たかのす米代川花火大会」や「町民祝賀会」を開催

鷹巣町出身者が

郷土を語る

鷹巣町出身者で東京鷹巣会の役員や「東京七座会」「東京坊沢会」「東京綴子会」「東京鷹巣米代会(鷹巣地区)」「東京栄会」「東京沢口会」「東京小猿部会(七日市地区)」の會長さんと各地区の女性会員を合わせて14名の方が鷹巣の風景や思い出、ふるさとを思う気持、期待することなどを語ってくださいましたのでご紹介します。

()内は出身地区です。



遠きに在りて

熊谷 忠憲

千葉県(七座)

発行1000号おめでとう御座います。上京して30年余り、振り返るとふるさと鷹巣は大きい町との思いがある。人も多く、また商店街が賑やかだった。祭りには華やかさがありサーカス、見世物小屋、バイクの曲芸などは都会でも珍しいものである。在郷地区の祭りは家庭的な雰囲気があり何かしらウキウキしたことを思い出す。春から夏の新緑、秋の燃えるような紅葉、冬は水墨画さ

ながらの神秘的な姿を見せてくれる我が故郷。大都市の恩恵を受けるには遠い位置にあるが、空港、高速道路、新幹線と急速に交通アクセスは進行している。後は如何なる産業が町の核になるのか故郷の皆さんに期待せずにはいられない。昨今の経済情勢に厳しいものはあるが更なる発展を願うものである。掛け替えのない自然の豊かさや人の心の温かさは、是非残して戴きたいものとして願う。



ふるさと山河

藤田 時義

神奈川県(七座)

「広報たかのす」誌の1000号、誠におめでとうございます。

が多くなってきております。

今、在京ふるさと会である東京鷹

私の生まれ育ったところは、前山伊勢堂で、鷹巣盆地在眼前に広がり、正面には米代川が蛇行しながら光り、遙か彼方には雄大な森吉山を眺める

村合併に関心が集まっております。願わくは、町民の皆様の納得のいく合併が実現できますよう、遠方よりお祈り申し上げます。

ことができる風光明媚なところです。

「広報たかのす」誌のますますの御発展を心より願っております。

若い頃は、故郷を顧みることもなく、ただ夢中で働き続けてきました

が、定年を迎える頃から、故郷の山川、人びとを懐かしく思い出すこと

が、定年を迎える頃から、故郷の山川、人びとを懐かしく思い出すこと



鷹巣町に期待する

田村 征雄

埼玉県(坊沢)

「広報たかのす」の発行1000号を心よりお祝い申し上げます。

東京坊沢会は、平成15年度で第13回の総会・懇親会を迎えました。毎回、東京・池袋の開場には関東一円

鷹巣町が誕生してから48年にもなる

から坊沢出身者が集まり、近況を語り合い、思い出話に花を咲かせながら和気藹々と懇親を重ねています。

早さを感じています。この間、鷹巣

町の発展は実にめざましいものがありました。秋田北空港の開港、伊勢

堂岱遺跡の発掘、ケアタウン・福祉

の町づくりへの取り組み等は全国に

鷹巣町の名前を広めました。

と共に故里鷹巣町の絆を尚一層強めていきたいと思っております。



ふるさとと東京鷹巣会

中村 ヒロ子
千葉県(坊沢)

東京鷹巣会に参加するようになってから10年余、これを機に、鷹巣町の様子がわかるようになってきました。それまでは、たまに親からの手紙で、村のニュースがわかる程度、帰るのもままならず、望郷の思いだけがつのる、遠いふるさとでした。

総会は、東京のホテルで行われ、沢山のごちそうや郷土料理も出され、民謡や踊りにバンド等もあり、鷹巣弁や標準語の混ざり合う興奮する一

日で、子供の頃、楽しみにしていた「鷹巣の祭」の様子がします。

数年前には、坊沢の獅子踊りも見ることが出来、大変感激しました。これも諸先輩の努力、鷹巣町のご支援のおかげだと思えます。この会の波及効果は計り知れない程、これからは私達もなるべく鷹巣に足を運びたいと思えます。そしてふるさとが益々活気ある町になって行きます様、心から祈っております。



ふるさと

川村 笑子
埼玉県(綴子)

流れもつきぬ米代のたゆまぬ水の強さもて。校歌はふるさとを思う心呼び起してくるすれれものです。懐の広い母の暖かい愛、師の愛ではないでしょうか。中学校のグラウンドの後方に広がる山や川、野の草花の香り眩しいばかりです。ふるさとの自然はいつも暖かく、やさしく迎えてくれます。ふるさとを離れて40年余り、母として子育てに翻弄され、受験に悩む時、恩師先輩には親

身になって色々相談にのっていた。いた事など、今でも忘れられませんが、地元、諸先輩方々の並々ならぬご努力により、県下、2つ目の秋田北空港が開港され、我がふるさとが益々近くなりました。行くチャンスが増え心がはずむばかりです。ふるさとはいつも行きたい所です。

ふるさとは本当にいいものです。我がふるさと益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



ふるさととの絆

高橋 千春
千葉県(綴子)

齢を重ねる度に、日毎年毎が短く感じると聞く。元旦に迎える年が如何なる年かと公私共に推し量ると、とても長く感じられる。されど過ぎし年を振り返るに、その短さに唖然とするのは如何なる事か。他者に問わば、歳をとったせいだ、との答えが常の例である。否そればかりではないはずと、自らを慰めんばかりの気持ちで湧き出るのは何故か。気づけば時代は21世紀に突入した。少し

前までこの世紀が技術進歩に豊んだ何やら夢のような世紀を彷彿とさせたものである。今世紀初頭はそれ程前世紀末に比し大きな変化は感じられぬ。しかし、区切りの時を迎えた事に変わりないはずである。

近年では、ふるさととの会の意義も役割も否応なく時代の意識的変容を迎えているように感じるのであるが、何時の時代にあっても、ふるさととの絆は大切にしていきたい。



老若男女が集い楽しめる街づくり

松尾 勇市
東京都(鷹巣)

広報誌の発刊1000号おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私は、今年3月には37年間の教員生活にピリオドを打ち、4月から学院の寮の舎監として学生の指導にあたることになっております。

故郷を離れてから早くも44年の月日が流れました。その間に鷹巣町の存在はいち早く福祉の町として、全国的に知られ評価も高く大変嬉しく

思っております。

だが、毎年帰省する度に感じることは、若者や女性達に好まれる街づくりができていないということです。温泉も、行楽も、買い物も街からよそへでかけることがほとんど、空港からわずか10分で街に着くという利便性も活かされていないのが大変残念に思われます。老若男女が集い楽しめる、食事やレジャーを兼ねた買い物ができるそんな街を望みます。



ふるさと鷹巣町

小市 哲子

東京都(鷹巣)

私が上京しましたのは、昭和42年のことでした。当時の鷹巣町は昼間は人が忙しく流れ、早朝には農家のおばさんが野菜を売りに来ました。また、豆腐や納豆売りも回って来て、母がやりくりしながら買っていたのを覚えています。

今年、還暦や寺田服装学院の同窓会があり、なつかしい方々にお逢いできたのが大きな喜びでした。

町では、中央公園が一番美しいと

感じて写真を撮り、それを模写した絵を飾って楽しんでおります。

鷹巣の産物祭では、なつかしい黒いダマイモがあり、粘りがあって大変美味しかったです。

今後の町への希望としては、同窓会などの折、大勢で泊まれる宿泊所があればいいなと思います。

東京では、ふるさと会や同窓会の仲間達で心おきなく鷹巣弁でお話ができることがとても幸せに思います。



駅前通りに賑わいを

高橋 二三男

神奈川県(栄)

昭和30年代前半に上京し、首都圏で生活する様になって46年。20代、30代当時の帰省は鉄道が主で、朝、鷹巣駅に到着する夜行列車をよく利用しました。当時の駅前通りは、お土産屋さんや食べ物屋さん賑わっており、首都圏に戻るときは必ず駅前のお土産屋さんで鷹巣のお土産を沢山買って帰ったものです。

その後、帰省するのに鉄道からマイカーに、更に5年前に鷹巣町に空

港が出来てからは、空路を利用する時代が変わり、私の帰省の手段の変わりと共に、郷里鷹巣町の駅前の様子の変わり様に驚きと淋しさを感じています。駅前の賑わいは鉄道の利用客の増減との関係ばかりでなく他に諸々の事情がございましょうが、鷹巣駅前通りが往事の活気を取り戻され、首都圏で生活する私達にとって郷里、鷹巣町の情報発信基地とならんことを勝手ながら希望します。



ふるさと

早川 政子

埼玉県(栄)

故郷への想いは計り知れないものがあり、春も近づき消えかかる雪下からのぞく雑草のやわらかな緑色は今も忘れられない。山々に囲まれゆったりと広く流れる米代川、夏は水あそび、秋は落穂拾い、豊かな自然の中で巡り合いは心の支柱となり、温かく教え導いて下さった恩師、日暮れを忘れあそんだ友、戦中戦後厳しい時代を貧しいながらも優しく育ててくれた両親、余生を楽しむこと

なく急ぎ旅立ってしまいました。

昨年も秋の一日東京鷹巣会が開催され友達や知人と久しぶりに話はずみ、日頃張りつめた気持ちも緩み、最後に全員で「ふるさと」の大合唱となりました。胸の中には紅葉に染まった故郷が想い描かれて熱くこみあげるものがありました。平和で穏やかな日々を過ごしたふるさととは私の心の宝です。いつまでも忘れずに、大切にしていきたいと思えます。



望郷

畠山 文雄

埼玉県(沢口)

広報たかのす1000号発刊、おめでとございます。私は藤株で生まれ、今は埼玉に住んでおります。

昭和36年4月に上京以来、毎年帰郷しております。帰る度に子供の頃遊んだ山や川、春には桜の咲く頃の運動会、まるでお祭り様でした。夏は川遊びや魚取り、冬はスキーと変わりゆく田園風景、同級生との出会い、ある日町役場の同級生からふるさと東京交流会を開催するから参加

してとのさそいがあり心踊らせて出かけてきました。

それ以来沢口会会員と町とのパイプ役として自分に今出来る田舎への恩返しと思いつとめてまいりました。田舎を離れて40数年埼玉で自営を生活しております。いつか生まれ育った田舎へ恩返しの出来る日を思いがらばっております。町も合併問題がありこれからさらに発展して行く事を祈念致します。



思い出と期待すること

寺嶋 トシ子
東京都(沢口)

昔を思い出すと、映画を観るのに鷹巣まで、1時間近くかけて歩いた事や就職列車で友達と別れ旅立った事などが懐かしく思い出されます。

鷹巣もあきた北空港も出来て、町の中も都会並みになってきている様に思いますが、東京の方から見ると少しは淋しさを感じる事もあります。また、森吉の方には冬はスキー場とか温泉があると聞いていますので、観光廻りが出来る様になったらいい

ですね。

最後に、都会の方にはそちらのアップールが伝わっていないと思いますので、パンフレットを多く作って、都会の方の方に声をかけて送ってほしいし、地場産業の民有林の活用や空港運賃を割引して、町に町民の方と都会の方の交流の場があってもいいと思います。町民のみなさん町の繁栄の為に今後も益々頑張ってください。



ひょうし言

寒川 俊男
千葉県(七日市)

集団就職列車にのり、故郷から離れ東京に住んで40年になりますがい出すのは故郷山奥の明利又です。どこの沢に行けば山菜の何が取れ、どこの川に行けばカジカが沢山取れて、と今でも頭に浮かんできます。

今その故郷の山は杉林になり、過疎化のせいもあると思いますが昔のように獣道がありません。ただひとつ嬉しいことは鮎毒で魚が居なかつた川に、ヤマメ・イワナが住むよう

になったことです。でもその川も都会のナンバーを付けた車が山奥まで釣りに入っています。

また、町に目を向ければ昔あんなに賑わいを見せていた商店街も、今はシャッターロードになり本当に寂しい限りです。

でも町のほうも企業誘致に力を入れてるようですので早期実現出来ることを願っております。10000号発刊おめでとうございます。



鷹巣に帰って思う事

三上 チサ子
千葉県(七日市)

東京へ出てきて40年、子供達が小さい時は鷹巣へ帰る事が出来なかったが、この頃はお盆には必ず帰る事になっている。

鷹巣会の役を引き受けてからは故郷交流プラザin鷹巣にも出席させていただき、楽しい一時を過ごしました。3年くらい前には大響祭にも行きました。午後2時頃行きましたがとても天気がよく暑くて大変でした。夕方6時すぎから突然寒くなり夏と

は思えないくらいで、私達は厚着をしていなかったので寒さに震えてこれから本番という時に帰る事になりました。本番を見ないで帰った事は今でもとても残念に思っています。

一昨年も大響祭へ行く予定で鷹巣に帰ったのですがお盆前に終わってしまいました。大太鼓の里、空港、ケアタウンも見学しました。後は温泉があればいいのと思っています。



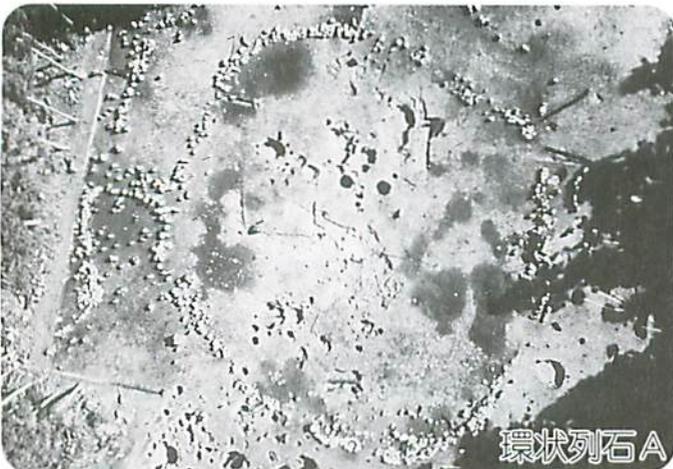
第16回東京鷹巣会総会が開催され約200人が出席、懇親会では町の軽音楽バンド・ストーンレイクスも参加、「きりたんぼ」もふるまわれ長蛇の列、ふるさと談議に花を咲かせ、交流しました。

国指定史跡

伊勢堂岱遺跡

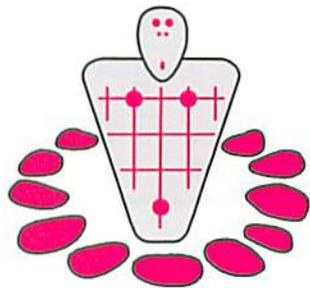
おもなできごと

- 昭和5年頃 国鉄阿仁合線（現秋田内陸縦貫鉄道）建設の際、大量の土器・石器が見つかる
- 平成4年7月 秋田県教育委員会による分布調査（遺跡が公に周知される）
- 6年11月 秋田県埋蔵文化財センターによる道路予定地の範囲確認調査
- 7年5月 秋田県埋蔵文化財センターによる発掘調査（平成7年度調査）開始
- 環状列石A発見
- 8年1月 環状列石B発見
- 8年1月 県教委・県土木部、環状列石の移設保存を予定
- 4月 平成8年度調査開始
- 10月 町では町文化財保護審議会に諮問した結果、伊勢堂岱遺跡を現地保存すべき、という答申を受け、遺跡の現地保存・道路のルート変更を県土木部へ要請



環状列石A

▲直径32メートルで、メロンのような形をしています



環状列石B

▲他の環状列石のように円形にならず、弧状の形をしています

・・・昔々、小ヶ田には、亡くなった人をまつる環状列石がありました。毎年、おまつりの頃になると近くの集落の人は、この聖地に集まり先祖のために、小猿部川の上流から運んできた石を並べたり、歌や踊りを披露していました。時は経ち、平成7年、再び、私たちの目の前に現れました。

伊勢堂岱遺跡は大館能代空港のアクセス道路東西線の計画に発見されました。当初は道路を通すため、発見された環状列石は移築する予定でしたが、遺跡が重要であるということから、現地保存にし、アクセス道路を迂回することになりました。

これまでの調査で複数の環状列石や建物跡、お墓など祭祀に関する様々な施設が発見されており、一大葬祭センターであったものと考えられています。

1. 遺跡の発見とその後の経過

遺跡が発見された平成7年、当初県教委などは環状列石の移設保存の予定であったが町文化財保護審議会に諮問した結果、現地保存すべき、という答申を受けた。この段階で忘れてならぬことは当時の秋田県知事佐々木喜久治氏の決断である。既に10億を超える予算執行のもと工事が進行しているアクセス道路に新規に迂回路を造設することには関係者の強い反対があったが、それを乗り越え遺跡の現地保存を決定したのは大英断とい

縄文ROMAN
伊勢堂岱遺跡



中嶋 修三

伊勢堂岱遺跡は、縄文時代後期（約4000年前）の遺跡で「縄文人の折りの聖地」として注目を集めている。その全ぼうと実体を解明し、もって伊勢堂岱遺跡の発展と活用に資したい。

11月
ハンドボーリング探査により、環状列石Cを発見

秋田県が「環状列石とそれに伴う建物跡や捨て場などの施設がセットで見つかる例は、当時の環状列石を中心とした祭祀を知る上で非常に貴重である。環状列石のみ移設することは遺跡を消滅させるに等しい。」という見地から遺跡の現地保存、道路のルート変更を決定

平成9年4月

6月

詳細分布調査平成9年度調査開始

範囲確認調査開始

7月

鷹巣町文化遺跡ワーキンググループ発足

9月

環状列石Cの部分的な発掘調査開始（全体の10分の1）

平成10年4月

秋田県埋蔵文化財センター秋田北分室が当町に設置される

5月

鷹巣町による平成10年度調査開始

7月

環状列石Cの部分調査再開（全体の4分の1）

平成11年4月

鷹巣町埋蔵文化財整理室完成

12月

平成11年度調査開始

6月

米代川の縄文文化展

伊勢堂岱遺跡調査指導委員会発足

環状列石Cの部分調査再開（全体の2分の1）

▶環状列石よりは小形の祭祀施設で、石の下には墓穴が作られ、墓標の役割をもっているものがあります。直径60cmの二重の石の円や、花びら形など、様々な遺構が発見されています。



配石遺構



環状列石C

▲国内最大級の大きさを誇ります。3重の環で、内側の広場になる部分を窪地にして石を並べる部分に土をもっています。



縄文土器



掘立柱建物跡

▲環状列石の周囲を巡り、6本の柱で構成され何度も立て替えが繰り返されたようです。これらは、食料貯蔵庫、キャンプ施設、亡くなった人を一時的に安置する施設であったなどの諸説があります。



埋設土器

▲土器に遺骨を納めお墓に埋めました。日本の土は酸性が強いため、骨は溶けて無くなってしまいます。



土製品

うべきもので満腔の謝意と敬意を表すものである。

2. 環状列石の規模と特色

環状列石はA、B、C、Dと四基発見されたが、これらの規模と特色などを概観してみよう。

当遺跡は平成13年に国指定史跡となったが国指定史跡になるには超えねばならぬハードルが多く、この時、助言や指導にご尽力なされた、当時の文化庁岡村道雄主任文化財調査官の存在を忘れることはできない。

環状列石Aは円環と北側に張り出す部分によって構成され、環状列石を構成する石は約1500個、円環の長径は30m、短径は27m、張出し部分は円環部分から4mの接続部分を介し東西に30m程伸びている。配石は小牧野型、その他様々な型の配石が見られる。この配石のブロックが円環をなし一つの環状列石を形成している。北側は入口と考えられる空間があり、その延長線上に遠く白神山地が望まれる。「死者の魂が高い山へ帰るといふ信仰がある」ことから魂の入口という説、北の方

| | |
|---------|--|
| 9月 | 地形を区切る全長100メートルの溝跡発見 |
| 平成12年3月 | 国指定史跡指定申請に関する説明会（土地所有者） |
| 4月 | 平成12年度詳細分布調査開始 範囲確認調査結果により指定申請範囲を決める |
| 6月 | 前期調査指導委員会 国指定史跡指定申請書提出 |
| 7月 | ハンドボーリング探査によって、列石Cの南側に新しく環状列石D発見（長径36m・短径32m） |
| 8月 | 文化庁が指定申請地を現地調査 |
| 9月 | 後期調査指導委員会 （指定申請書提出の報告） |
| 10月 | 文部大臣から国文化財保護審議会へ諮問 |
| 11月 | 国文化財保護審議会から「縄文時代後期（約4千年前）の複数の環状列石とそれに伴う建物跡や墓など、当時の祭祀（祭り・祈り）に関する様々な施設が発見されたうえに、当時の土木工事例としても重要な施設も見られ、当時の典型的な祭祀遺跡として極めて重要であるとして文部大臣へ国指定史跡の答申 |
| 平成13年1月 | 伊勢堂岱遺跡の国指定史跡指定について官報に告示 |
| 5月 | 内容確認調査（第8次調査） |
| 6月、7月 | 国指定を祝う第1回縄文まつり |



沢（捨て場）

▲列石Aの東に隣接し、環状列石での儀式に使用された道具を捨てた（納めた）、もの送りの場と考えられます。



縄文住居

▲縄文まつりで、縄文住居を再現しました。縄文人はこのような家に住んでいたと思われます。



環状列石D

▲列石Cより一回り小さい、直径約36mの環状列石で、中心と外側の2重の円で、その間に配石遺構がつくられています。



第9次調査（平成14年度）



縄文まつり（劇：縄文祭礼）

伊勢堂岱遺跡は3つ以上の環状列石が密集しており、これは、全国的にも例がなく、遺跡の特徴である。その中でもCは国内最大級の環状列石として注目されている。

環状列石Cは現在のところ北側半分より発掘されていないが最も注目される研究価値の高い遺跡であり、我々の知的好奇心を限りなく刺激するものである。中心線を左右に30度ずつ区切ってみると、中央帯の中心を基点に孤状の配石があり、その配石が楕円を形成している。ブロックの一つ一つが特徴で楕円は多様な組み石の集合、転貨の四季の

3. 環状列石Cの実体

位を知っていたのではないかと。縄文のムラでは死者を葬むるに最初はムラの共同墓域でやっていたが最後の段階で環状列石での祭祀に変わったのではないのだろうか。

Aは一番北側に位置して最初に発見され、次いでBがAの西側にある。Bは直ぐ下を通る内陸線工事の際半分以上削り取られて半円状を呈している。CがAの南に位置しDはCの南方にある。

| | |
|---------|--|
| 10月 | りと第5回縄文シンポジウム 前期調査指導委員会 後期調査指導委員会 文化遺跡ワーキンググループ 英国研修 |
| 平成14年5月 | 第9次調査開始、環状列石Dの部分的調査（全体の4分の1） 環状列石Dが徐々に明らかになる ほぼ完形の土偶が出土する |
| 6月 | 前期調査指導委員会 第2回縄文まつり |
| 7月 | 後期調査指導委員会 県埋蔵文化財センター調査分の出土品が町に返還 |
| 10月 | 伊勢堂岱遺跡基本構想が策定 |
| 11月 | 県北地区遺跡報告会 出土品移管記念特別展「帰ってきた土偶たち」 第10次調査開始。堀立柱建物跡の柱穴を多数検出 |
| 平成15年3月 | 前期調査指導委員会 |
| 4月 | 環状列石C、D周辺の地形測量開始。Cの東側で人工的な地形を確認 |
| 5月 | 第3回縄文まつりをたかのす風土館（ファルコン）で開催 |
| 7月 | 後期調査指導委員会 文化庁による調査指導 |
| 9月 | |
| 11月 | |

めずらしい 出土品ベスト3



今後も活動にご協力を!!

平成14年度に伊勢堂岱遺跡整備基本構想が策定され、縄文のころとかがたが生きる遺跡を基本理念として掲げており、住民参加の史跡整備、当時の自然環境の創出、そして縄文文化の研究と情報の受発信、施設を含めた総合的な整備を行うことを目指しています。遺跡の詳しい内容がわからなければ

史跡整備は行えないため、発掘調査を進めながら、簡易整備を徐々に進める予定です。また、住民参加の史跡整備では、文化遺跡ワーキンググループを中心に、湯車川の清掃、遺構の復元、縄文まつりを始めとしたイベントの企画、運営を検討しており、みなさんの積極的な参加を期待しています。

変化そして縄文人の死者に対する畏敬の念が表出したものでないかと考えられる。

4. 伊勢堂岱遺跡の活用と展望

伊勢堂岱遺跡は上述したように縄文時代の貴重な遺跡であり、この遺跡を維持整備することは地域住民に課せられた歴史的課題である。私達は出土した数多くの土器や石器と共に次代へ引き継ぐべき義務を負うのではないだろうか。伊勢堂岱遺跡の維持と発展のために必要な事項を列記すると次のようになるのではないかと考えられる。

①地域住民が皆伊勢堂岱遺跡に興味と関心を持つように積極的に啓蒙する。

②発掘は必要最小限に止め、なるべく現状のまま次代に引き継ぐ。

③体験学習の場づくりに努め、小中学生等の縄文理解と縄文体験を推進する。

④遺跡を通して縄文人の心の広く、温かき心の豊かさを感得できるようにする。

⑤伊勢堂岱遺跡は精神性の高い重要な遺跡であり学術的にも評価が高いことを自覚して大きい誇りをもつこと。

子どもたちが 夢を 語る

町内7小学校の6年生男女がこれまでの自分の思い出や鷹巣の未来について、夢を語ってくれましたので、ご紹介します。



ぼくと尺八



西小6年

野呂竜平

ぼくの一番の思い出。それは、フアルコンでやった町の文化祭での発表です。西小の学習発表会でやった尺八の演奏をやりました。

塩ビ管での尺八作りから始まったぼくらの尺八物語。紙ヤスリをかけたり、色をぬったりしながら、ぼく達だけの手作り尺八を完成させました。最初はなんとなく簡単に音が出ていたのに、音階練習になつたとたん全く音が出なくなりました。息の出し方が悪く、頭がクラクラして吹くことができなくなりました。思うようにできなくて「やめてしまおうかな」と思ったこともありましたが、少しずつ曲らしく吹けるようになってきておもしろくなりました。発表当日、ライトがあたり発表がスタートしました。他の学校のすごい曲とは違い、短い曲三曲だけだったけど、ぼくににとっては最高にがんばった尺八です。一番の思い出です。

鷹巣町の未来



西小6年

畠山沙樹

わたしが大人になるころ、鷹巣町がこうなったらいいなあというのを考えてみました。

たくさんの方が増えるように、ショッピングモールができればいいなあと思います。そうすれば人がたくさん来るし、働く人も増えます。買い物だけじゃなく、ドームやホテルも増えてもいいなあと思います。

でも一番大切にしていきたいのは自然です。今の鷹巣は、山がたくさんあるし、田畑もいっぱいあるから私は好きです。春には、中央公園や児童公園にたくさん桜も咲いてとてもきれいです。私は時々、緑や花を見てのんびりするのが好きです。自然は人の気持ちをやさしくしてくれるような気がします。

たくさんのお店、建物、人が増え元気な町になりながら、自然のすばらしさでも有名な町になればいいなあと思います。

鷹巣町らしさをいつまでも



綴子小6年

畠山翔

僕は、この12年間、鷹巣町で支えられながら生きてきました。鷹巣町は森林が多く、空気が澄んでいて、僕にとってはたいへん住みやすい町です。いろいろな行事も多く、とても参加しやすいです。

しかし、僕の家近くに、友達と遊べる場所が意外と少ないことが、少し残念に思います。できれば子ども達が安全に、楽しく遊べる場所が増えてくれればよいと思います。

これからも、大好きな鷹巣町らしさを残しながら、町民の暮らしに目を配り、いつまでも歴史に残る鷹巣町であってほしいと思います。僕も鷹巣町民として、いつまでもこの町を大切に、守っていける人になりたいと思います。

こんな広報にしてほしい



綴子小6年

山内裕子

私は、毎月町の広報を見ていて、思ったことがひとつあります。それは、子どものための記事が少ないということです。難しい言葉や内容が多く、何のことについて書いているのか、私に分からないものもありました。

そこで私は、大人のためのページは必要なので、そのほかに子どものためのページを毎回書いてほしいと思います。例えば、それぞれの学校で行う行事などをのせたり、鷹巣のどこかの町内の行事や、子どもたちの間で、今はやっている遊びなどの情報を記事にしたらよいと思います。そうすれば、子どもたちも楽しく広報を見たり読んだりできると思っています。

大人から子どもまで楽しく読める広報にしてほしいと思います。

元気な町 鷹巣町



鷹巣小6年

村上陽亮

僕は4年生のとき総合の学習でデイスリーブセンサーに行きました。おじいさんおばあさんがたくさんいて最初は緊張しましたが、お手玉や将棋と一緒にやって楽しく過ごすごとができました。お手玉はとても上手だし、将棋はあまりに強くて試合になりませんでした。遊んでいるときおじいさんたちはとても元気でした。おじいさんたちは圧倒されました。おじいさんたちは本当は元気でいい物を持っているんだなあと思いました。鷹巣町は福祉の町なのでこのような施設がたくさんあります。このような施設を大切にしたいと思っています。おじいさんたちのパワーはすごいので、町をこのパワーで元気にしてほしいと思います。これからも町の人みんなが楽しく仲良く暮らせる町であって欲しいです。僕たちもおじいさんたちに負けないように毎日元気に過ごしたいです。

私が思う未来の鷹巣



鷹巣小6年

畠山沙織

私は、花がたくさん咲き、ごみが落ちていないきれいな町でいてほしいです。町中にごみが落ちていたりといやな気持ちになってしまいます。私の家の近くに空港があります。また鷹巣町は福祉の町とも言われていて特色があつていいと思います。私は鷹巣町が好きです。大人になったら鷹巣を出て行くかもしれないけど、将来鷹巣町がどこよりもいい町になることを願いたいと思います。明るい町、きれいな町、楽しい町など、目指すべき目標はたくさんあります。日本中の市町村で今、合併を考えています。合併をしてしまうと、今の鷹巣町はなくなってしまう、他の町といっしょになってしまいます。その前に今からでもみんなが願う鷹巣町を作っていきたいと思えます。そのために私たちが、しっかりと考えた考えを持ち今から町をひたすらっていく力をつけたいと思います。

未来の鷹巣



東小6年

長谷川和樹

ほくは、未来の鷹巣は店がたくさんあつて、スポーツがさかんな町になってほしいと思います。なぜかという、今店がどんどんなくなっているからです。店がたくさんあることで、便利がいいし、店がたくさんあることによって、人口が増えて、町がにぎやかになると思っています。

あともう一つは、スポーツのことです。今は体育館とプールは同じ場所にあるけれど、陸上競技場、テニスコート、野球場などは全部はなれた場所にあります。だから一つのエリアがあれば、すごく便利だと思います。ぜひ実現してほしいと思います。

この2つが実現すると、ほく達が大人になった時、働く場所が増えて楽しく活気のあるまちになると思っています。

広報鷹巣記念すべき1000号



東小6年

亀山 楓

私は、いつも広報のある部分を楽しみにしています。それは、一番後のらんです。その内容で結婚する人とか産まれた赤ちゃんとかがついているところです。

12月号でカナダ人と米代町の人が結婚しているのを見ました。私は、びっくりしました。

でも、結婚する時言葉が通じるのかなあと思いました。

私が広報にお願いしたいことは、お年寄りにも見やすいように字を大きくしてほしいこと、表紙だけでなく中の写真もカラーにしてほしいことです。それから子供でも楽しく見れる記事を書いてほしいことです。それとお母さんたちでも喜ぶようにクッキングのことも少しのせてくれるといいと思います。

そのことをよろしく願います。

平和な鷹巣町



中央小6年

中嶋 大

日本の中では、誘拐や殺人などたくさん怖い事件が起こっています。昔は、日本は安全な国だと思われていたのですが、今は必ずしもそうではないと思います。

でも、鷹巣町はとても平和な町だと思います。いい人が多いし、人と人とのつながりがある町だと思います。

都会では、隣にどんな人が住んでいるかわからないという人もいます。うですが、ほとくの住んでいるところでは、そんなことはありません。近所の人はみんな知っているし、ほとんどの人があいさつもします。人と人のつながりがあるから平和なのだと思います。

鷹巣町は、これからも平和で安全な町であってほしいと思います。そして、日本全体が、鷹巣町のように、平和で住みやすい国になってくれればいいなと思います。

こうなってほしい鷹巣町



中央小6年

小松 千尋

私は、鷹巣町がどう変わってほしいという願いはほとんどありませんでした。この町が、今のようにな大きな事件なんて起こらない、平和で楽しい町であってくれればいいなあと思っています。

でも、父にきいてみたら「仕事があり、若者が定住できる町になってほしい」と言っていました。まだ子どもの私には、経済がどうこうということはよくわからないのですが、町に若い人が少なくなるのは大変なことだと思います。私も父が言うように、若い人たちが希望を持って生活できるような町になってほしいと思います。

もしかして、わたしが大人になったら他の町や県に住んでいるかもしれないですね。もしそうなら、やっぱりこの町が一番だなと思えるような町であってほしいと思います。

七日市奴踊り



南小6年

佐藤 聡 気

10月31日、ほくたちが「七日市奴踊り」を踊る最後の日がやってきました。町の文化祭の学芸発表としてファルコンで踊る日です。ほくは、着替えているときから緊張していました。みんなもいつもより緊張していました。

七日市奴踊りは、南小学校の5年生が地域の方のご指導を受け代々受け継いで踊ってきました。ほくたちも去年初めて踊りましたが、どうせ1、2回踊るだけだから、という軽い気持ちでした。でもほくたちは6年生でも踊ることになりました。踊るたびにみんなの踊りが上手になりました。今年の踊りが去年と全然違って、自分でもびっくりしました。どうでもいい、という気持ちで踊り始めた奴踊りでしたが、ほくはいつの間にか楽しく踊っていました。

2年間奴踊りを踊ったこと、ほくの最高の思い出です。

伊勢堂岱遺跡からのメッセージ



南小6年
佐藤 美穂

私たち南小学校の6年生は、今年「縄文まつり」に参加しました。最初は、縄文の人たちの気持ちや縄文時代の様子をうまく表現できるか不安でいっぱいでした。でも遺跡の見学や劇の練習を通して、縄文時代の人たちが環状列石にたくさんの思いをこめなくなった仲間を送ったことを知りました。私は、縄文の人たちの気持ちがみんなに伝わるように、一生懸命、祭礼劇を演じました。

縄文時代から4000年余りたつて鷹巣町は大きく変わりましたが、仲間や家族を大切に思う気持ちや亡くなった人が生まれ変わることを願う気持ちは、変わらないと思います。縄文時代の人たちが苦労して残してきたこの遺跡を、私たちや私たちの子孫も守り続けていかなければいけないと思います。伊勢堂岱遺跡は、縄文時代を現在をつなぐ、かけ橋だと思います。

6年生の思い出



竜森小6年
堀部 憲正

ほくが小学校で生活した6年間で、いろいろな思い出ができました。その中でも一番の思い出が自転車です。ほくは4年生の時からAチームになりたいと思っていました。ほくはそのため毎日毎日練習をしてきました。そして6年生になり、やっと夢がかないました。Aチームになれたのです。町大会、県大会は団体で優勝、個人では町大会が4位、県大会では3位となりました。そして残るは全国大会です。47都道府県から1チームずつ出場します。そしてついに全国大会の日がきました。結果は団体が30位、個人が181人中141位くらいでした。ほくはすべての点数を見ました。なんと学科が60問中、6問もまちがえていたのです。これが2問くらいになっていれば100位以内に入れていたのでとても嬉しいです。しかし、安全、技能走行では満点がとれてよかったです。

6年生の思い出



竜森小6年
佐藤 佳澄

私の6年生の思い出は、自転車競技で、全国大会までいったことです。6月に行われた、町大会では、21回目の優勝を果たすことができました。21年連続で、町大会で優勝できてもうれしかったです。

県大会では、他の学校にまけないように、あとプレッシャーにまけないようにがんばりました。今年の県大会は、竜森を入れて3つの小学校が集まって行われた県大会でした。団体では自分が思っていたよりも高い得点での優勝でとても心に残りました。

夢に見た全国大会は、去年応えんしに来たことがあるけど、自分が出るようになることも緊張しました。

私は、緊張のせいかわ、思いもよらぬミスをしてしまい、そのくやしさがまだ心に残っています。来年は今の5年生に、全国大会に出て伝統を受けついでほしいと思います。

編集後記

昭和30年5月5日に第1号が創刊されて以来、48年の歳月を経て1000号を発行するになりました。

この間には、48年12月1日300号、58年3月15日500号、平成3年7月15日には700号の記念特集号が発行され、関わってこられた先輩の広報マンのみなさまには敬意を表するものであります。

またこのたび、1000号の発刊にあたりましては、町内在住者15名、鷹巣町出身者で東京鷹巣会の役員と各地区出身の女性14名並びに各小学校6年生男女14名のみなさまには、これまでの思い出や鷹巣への期待、今後のことなどについて寄稿していただき、心から深く感謝申し上げます。

今後につきましては、現在、市町村合併について協議され、どのような結論づけがされるのかわかりませんが、寄稿された内容や町民のみなさまのご意見を参考にしながら、よりよい紙面づくりに心がける所存です。

広報広聴係担当

野呂豊彦
千葉祐幸

